

福岡市馬術協会

【設立年月日】

1971（昭46）年1月29日

【加盟年月日】

1971（昭46）年4月28日

【歴代会長】

桑原 廉 靖、高松 光 彦、林 武 彦
矢田 靖 夫、徳 永 真 治、田 中 雅 幸

【歴代理事長】

今石 貞二郎、平田 尚 志、矢田 靖 夫
上野 貴 士、徳 永 隆 弘、田 中 雅 幸

【沿革】

福岡県馬術連盟は1961（昭36）年創立され、年二回の県馬術大会や対山口戦、或は国民体育大会の予選等を行って来ました。その福岡県馬術連盟が推進母体となり1971（昭46）年1月29日福岡市馬術協会が設立されました。そして同年4月28日福岡市体育協会に加盟しました。

1976（昭51）年9月22日南部流域下水処理場内に七千平米の仮馬場を設置。同年11月27日第14回福岡県馬術選手権大会を開催しました。参加人員は約70名、馬は約50頭でした。翌1977（昭52）年9月15日に第一回九州中国四国近県馬術大会に参加。この大会は参加人員約100名、馬は70数頭にも及びました。



現在までに福岡市馬術協会が参加した競技会は、福岡県馬術大会、福岡県馬術選手権大会、とびうめ国体記念馬術大会、佐賀県馬場開設記念馬術大会、宮崎県馬術大会、熊本国体記念馬術大会、九州馬術大会、西日本馬術大会、全日本馬術大会、国民体育大会、桜花杯馬術大会、福岡馬事公苑親善馬術大会、九州グランプリ、新春馬場馬術大会、オータムホースショー、クリスマスホースショー等の馬術大会等があります。

福岡とびうめ国体で福岡県馬術競技場が開場し、福岡での競技会が定着する基盤となりました。



福岡市馬術協会は今後も福岡県馬術連盟と協力して、馬術人口の増加を図るため少年少女への馬術教室や、市民への無料乗馬体験などを開催し広く啓蒙活動を行って行く予定であります。



2006年10月9日
市民総合スポーツ大会に人馬の初の入場行進

「私の乗馬体験」

一般人にとって乗馬の機会と言うのはどのくらいあるのだろうか？ 私に関して言えば小学生の時に遊園地でポニーに乗った一回と、高校の修学旅行で行った阿蘇の草千里で、とってむくたびれた感じの馬に乗った一回の計二回である。おおかたの人にとって乗馬とのかかわり合いはそんなものであろう。あるいはそれ以下かも知れない。

ポニーに乗ったのは小学校三年生の時のことだった。その遊園地には他にもいろいろな乗り物があり私もいくつか乗ったはずなのだが、その日のことで覚えているのはポニーのことだけ。一段高い台の上で自分の番を待つ間に、乾いた草の臭いがしていたのを覚えている。それくらい強烈な印象を受けたということだろう。



あの時から半世紀近く経ってしまったが、子どもの時のあのわくわく感を思い出したら、本当の馬に乗ってみたいとなった。

乗馬はいったいどこでするのだろうか？と言うのがまず最初の疑問。さっそくインターネットで調べてみた。驚いたことにわが家から車で二十分ほどのところに、乗馬クラブが二つもあることがわかり、体験レッスンが受けられるとも書いてあった。

富士の見える高台にそのクラブはあった。

間近で見る馬たちの重量感に圧倒された。これは、ポニーに乗るのとはまるで違うぞ、そう思ったがもう逃げだす事は出来ない。

体験レッスンを受けるのに必要なブーツ、ヘルメット、乗馬ズボン、チャップス（ズボンカバーの

一種）は無料でお借りできた。

着替えを済ませ自分のレッスンを待つ。

待っている間に不安はどんどんつゆり、五十代半ばの私が乗馬なんて無謀過ぎたかと思い始めた頃、六十代と思しき乗馬服姿の女性が、馬を引いて前を通り過ぎたのを見て少し安心した。

レッスンは三十分ほどであった。小さな踏み台を借りたのだが、鐙に左足をかけて鞍にまたがるだけで、もうその日の気力を全部使い果たした気分。やっとよじ登った馬の上からインストラクターに「もう降りられませんから。」と泣きを入れた。

一周百メートルほどの馬場を並足（当然！）で回った。初めはガチガチに固まっていた体が二周、三周と回るうちにほぐれてきた。馬の揺れに身体を任せると何とも心地よい。もっと乗っていたかったのだが、あっという間に三十分が経ってしまった。今日のパートナー、ランスロット君にお別れして夢見心地で帰宅の途についた。馬について何の経験もなかった私が、たった一度の体験レッスンで大の乗馬ファンになってしまった。いつか一人で馬に乗れるようになりたいなあと思つた。



いつか、こんな日が来ることを夢見て 文 深津澄子